令和8年産　特別栽培米つや姫　栽培ごよみ（飯南版）

月	4月					5月					6月					7月					8月					9月				
日	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25
	育苗					活着		有効分げつ					無効分げつ			幼穂形成			穂ばらみ		登					熟				

生育段階・区分

播種　田植え　有効分げつ決定期　穂首分化期　最高分げつ期　類花分化期　減数分裂期　出穂期　成熟期

技術内容

- 育苗：できるだけ外気温にならして健苗育成
  - ・硬化期は温度管理に注意しながら
  - ・薄まきの励行（乾籾一二〇g（箱）程度）
  - ・深耕は、一五～一八cmを目安に行う
  - ・耕起作業は、均平が図れるように行う
  - **◎健康な苗づくりを！（苗半作！）**
- 活着：**◎植え付けは適正に！**
  - ・有機物多用田では減肥
  - **◎基肥は控えめに！**
- 有効分げつ：**◎水管理の徹底！**
  - 体系処理による効果的除草
  - **（坪六〇株を目安に）**
  - **・植付株間は一八～二二cm**
  - **・一株植付け本数　四～五本**
- 無効分げつ：〈粒状肥料体系・ペースト肥料体系〉
  - **◎中間追肥の施用**
  - （中干し開始一六～二〇本／株）
  - ・中干しの実施（極端な中干しは行わない）
  - ・作溝の実施
- 幼穂形成：葉色・茎数を確認し生育に応じた施用を実施する
  - 有機質肥料は緩効性のため出穂前二五日を目途とする
  - **◎穂肥は適期に適量を！**
- 穂ばらみ：**◎低温の時は深水管理**
  - **◎穂いもち防除・カメムシ防除**
- 登：**◎カメムシ防除の徹底！**
  - **・仕上げは万全に！**
- 熟：**◎出穂後三〇日程度は間断かん水**
  - **・適期落水に努め早期落水はしない！**
  - **◎適期刈り取り**
  - ・青味籾率一〇～一五％
  - **◎適正な乾燥（急激な乾燥は避けゆっくりと）**
  - ・水分一四．〇～一五．〇％
  - **◎網目一・九〇使用厳守！**
  - ・選別流量を適正に！
  - 土づくりの実施（稲わら腐熟・土づくり肥料・堆肥等）

一発施肥の場合、幼穂形成期頃に葉色が淡くなる場合は、追肥を行う（葉色板で3.5以下）（窒素量で1kg）

◆栽培での注意事項

栽培資格 栽培要件	JAしまねの定める特別栽培米基準に基づき、適切な栽培管理を実施し栽培の記録を行う。
栽培目標	土づくりを基本とし、健苗育成、適正防除･施肥･水管理等を徹底する。また、収量を第一とせず、品質（整粒歩合）･食味の向上に重点を置く。
土づくり	稲わらを腐熟させるために秋起こしを実施する。地力増進を図るため完熟堆肥等を施用し、品質、食味向上、収量改善のため、土づくり肥料（推奨品目：田んぼの守）を施用し、稲体の健全化を図る。 また、深耕は15～18cmを目安とする。
施肥	肥料は暦に基づき有機態窒素入り肥料を施用し、施肥量は化学肥料の窒素成分で10a当り4.0kg以下（慣行栽培の5割以下）とする。
育苗･田植	特別栽培米の種籾は、無消毒種子の温湯消毒種子または、微生物農薬による消毒種子を用いる。 健苗育成を行うため薄播き（乾籾120g程度）とし、1株当り4～5本植えとする。
水管理	過繁茂を防止し稲体の健全化を促すため、間断潅水や中干し等、基本管理を徹底する。なお、登熟期間（生育後半）での根の活力を維持させるため、極端な中干しを行わないようにする。 また、品質向上（整粒歩合）を図るため出穂後30日頃まで間断潅水を行い、早期の完全落水をしない。
病害虫防除	畦畔の草刈り等を徹底し、病害虫防除に努める。 農薬を使用する場合は、種子消毒、防除剤を含め、栽培暦に基づき薬剤を使用する。なお、指定薬剤以外の薬剤防除が必要な状況が生じた場合は、関係者が協議し、追加防除を行った圃場の米は慣行栽培米の扱いとする。

◆施肥基準（10a当り）

粒状肥料体系

「　」内は、化学肥料由来の窒素量

肥料名	基肥	追肥	穂肥 -25日	穂肥 -10日	成分量(kg) 窒素	成分量(kg) 燐酸	成分量(kg) 加里	成分量(kg) 苦土
完熟堆肥（※1）								
田んぼの守（推奨品目）	60					1.8	1.8	2.6
優作	25				2.5「1.23」	2.5	2.5	
ホスビタ（※2）		20				1.0		2.3
けい酸加里プレミア34（※3）		20					4.0	0.8
優作（※4）			18		1.8「0.88」	1.8	1.8	
化成肥料17-0-17（※5）				10	1.7「1.7」		1.7	
合計					6.0「3.81」	7.1	11.8	5.7

ペースト肥料体系

「　」内は、化学肥料由来の窒素量

肥料名	基肥	追肥	穂肥 -25日	穂肥 -10日	成分量(kg) 窒素	成分量(kg) 燐酸	成分量(kg) 加里	成分量(kg) 苦土
完熟堆肥（※1）								
田んぼの守（推奨品目）	60					1.8	1.8	2.6
フレーバーペースト734	35				2.45「1.23」	1.1	1.4	
ホスビタ（※2）		20				1.0		2.3
けい酸加里プレミア34（※3）		20					4.0	0.8
優作（※4）			18		1.8「0.88」	1.8	1.8	
化成肥料17-0-17（※5）				10	1.7「1.7」		1.7	
合計					5.95「3.81」	5.7	10.7	5.7

一発肥料体系

「　」内は、化学肥料由来の窒素量

肥料名	基肥	追肥 -18日	成分量(kg) 窒素	成分量(kg) 燐酸	成分量(kg) 加里	成分量(kg) 苦土
完熟堆肥（※1）						
田んぼの守（推奨品目）	60			1.8	1.8	2.6
ホスビタ（※2）	40			2.0		4.6
けい酸加里プレミア34（※3）	40				8.0	1.6
新つや姫用一発肥料（※6）	40		4.8「2.4」	2.4	2.4	
化成肥料17-0-17（※5）		6	1.0「1.0」		1.0	
合計			5.8「3.4」	6.2	13.2	8.8

注意事項

※1：完熟堆肥は、作土の肥沃度判定表により決定（低：1トン、中～高：0.5トン～1トン、極高：0～0.5トンを目安。※黒ボク土の場合は、低：1トン、中：0.5トン～1トン、高：0トン～0.5トンを目安）
また、肥沃度が「極高」の場合は、窒素量で1kg程度減肥する（黒ボク土の場合で肥沃度が「高」の場合は、窒素量で1kg程度減肥する）

※2：ホスビタは、収量の増、食味向上に向け基肥または中間追肥としてホスビタを20kg～40kg散布を行う（生育状況等により施用、無施用を判断する）

※3：けい酸加里プレミア34は、粒状･ペースト肥料体系は田植え後30～35日頃に施用、一発肥料体系は基肥施用する。

※4：穂肥（優作）は、出穂25日前頃に葉色、茎数を確認し施用する。

※5：化成肥料17-0-17は、生育後半の肥料切れを抑えるため、葉色を確認し施用する（窒素施肥量で1.0～1.7kg）。但し、化成肥料由来の窒素量を超過しないようにする。

※6：新つや姫用一発肥料は、初期の肥効が緩やかなため、山間地域等の初期の分げつが確保しにくい水田では、極端な疎植をしない。

◆農薬使用基準（成分回数8回以内）

注1）〇内の数字は成分回数を表します。

注2）農薬使用の際は、使用基準やラベルを確認いただき、正しく使用しましょう。

種子消毒剤		特別栽培米の種籾は、無消毒種子を用い温湯種子消毒または、微生物農薬種子を使用
育苗箱施薬		稲名人箱粒剤 ②
除草剤	初期	先陣ジャンボ ②または、 先陣1キロ粒剤 ②または、 先陣200FG ② ※いずれかを選択
除草剤	初中期	オイカゼZジャンボ ②または、 オイカゼZ1キロ粒剤 ②または、 オイカゼZ250FG ② ※いずれかを選択
本田防除	出穂前	**〈カメムシ･ウンカ類〉**（出穂前～出穂期） キラップフロアブル ①または、 キラップ粉剤DL ① ※どちらかを選択
本田防除	出穂後	**〈カメムシ･ウンカ類〉** スタークル液剤10 ①または、 スタークル粉剤DL ① ※どちらかを選択
本田防除		その他に「いもち病･紋枯病･稲こうじ病」対策として、農薬カウントされない防除剤を別紙に記載しております。